

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 令和7年12月28日

事業所名: ちゃぼとひよこ 延喜

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
環境・ 体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	4	5			36	3		1	スペースの使い方について、引き続き工夫を行って行く。
	2	職員の適切な配置	3	2	4	利用人数や状況を踏まえ、職員間で協力しながら支援している。	22	7	1	10	職員間での連携を大切にしながら、より安定した支援体制となるよう工夫を続けていく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がい者の特性に応じた設備整備	6	3			33	5		2	
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	5	4		子ども達が心地よく過ごせる様に、清潔な環境作りを心がけ、活動に合わせて空間の工夫をしている。	38	2			子ども達が安心して過ごせる様、環境面の工夫を今後も行って行く。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	5	3	1	支援の振り返りを行い、職員間で情報共有をしている					支援の振り返りを大切にし、今後の支援に繋げていく。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	7	2							
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	7	2		皆一人一人がスキルアップ出来る機会があればよい。					研修に参加できる様に、計画を立てていく。
適切な支援の提供	1	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	5	4		支援プログラムを作成し、ホームページに掲載している。	34	1	1	4	支援プログラムについて、引き続きわかりやすい公表を行って行く。
	2	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	6	3		子どもの様子や保護者の思いを大切にしながら、支援計画の作成をしている。	31	3		4	子どもの状況や保護者の思いを丁寧に確認しながら、支援計画の作成を行っていく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	6	3		子どもの発達状況や生活の様子を踏まえ、支援に必要な項目を設定し、日々の支援内容を具体的に記載している。	31	3		6	日々の様子を踏まえながら、支援内容の整理や見直しを続けていく。
	4	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	7	2							
	5	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	7	2		子どもの状況に応じて支援計画を意識しながら、個々に合わせた支援を行っている。	31	3		6	子どもの状況に応じて、支援内容を見直ししながら取り組んで行く。
	6	チーム全体での活動プログラムの立案	9			朝のミーティングで話し合いを設けている。					今後も職員間の話し合いを大切にしながら、チームでの活動プログラム作りを続けていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	5	4		活動内容が固定化しないよう工夫している。	30	6		4	活動内容の工夫を続けていく。
	8	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	7	2		イベントなども開催して、細かく話し合いをしている。					
	9	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	7	2		その日の支援内容や役割分担について職員間で確認し、配置についても共有している。					事前の確認を大切にしながら、支援が円滑に行えるよう取り組んで行く。
	10	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	4	4	1	支援終了後に職員間で振り返りを行い、気づいた点を共有しながら、次の支援に繋げている。					日々の振り返りを大切にしながら、しえんを行えるように取り組んで行く。
	11	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	6	1	2	時間に余裕がなく記録までは難しいときがある。					
	12	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6	3							日々の様子を踏まえながら、支援計画の確認や見直しを行って行く。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	8	1		必要に応じて、職員が担当者会に参加している。					
	2	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	6	2		情報共有して、お部屋の中の先生でも共有している。					
	3	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	6	2							
	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	7	2		関係機関と支援内容の情報共有を行っている。					子どもの状況を関係機関と情報共有を継続していく。
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	7	2							
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	7	2		専門機関との連携や、研修への参加を行っている。					専門機関との連携や研修の機会を活かし、支援の室の向上に繋げていく。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	5	4		放デイはあまりないと思われる。	25	8	1	6	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	6	3							
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	8	1			34	4		2	保護者の理解につながるよう、説明の工夫を続けていく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	7	2		子どもの様子や保護者の思いを大切にしながら、計画の作成や見直しを行っている。	31	6		3	支援計画を示しながら、よりわかりやすい説明を心がけていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	4	5		必要に応じて保護者への助言や情報提供を行っている。	18	12	5	5	保護者の状況に応じた助言や情報提供の工夫を続けていく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	7	2		日々のやり取りを通して、子どもの様子や課題について保護者と共有を行っている。	32	8			日々のやり取りを大切にしながら、保護者との共通理解をしていく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	7	2		お話を聞くことだけでなく、仲間内で対応など解決策を伝える。	28	9	3		保護者の思いに寄り添いながら、職員間で連携し、適切な助言や対応を続けていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	5	4			15	16	5	4	
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	7	2			32	6		2	
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	7	2			35	3		2	わかりやすい情報伝達を心がけて行く。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	7	2		アプリを活用し、情報発信を行っている。	34	4		2	保護者が状況を把握しやすいよう、情報発信の工夫を続けていく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	7	2		写真を使う際は十分に気を付ける。	35	3	1	1	個人情報の取り扱いを再確認し、安心して利用出来るよう配慮を続けていく。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
非常時 等の 対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	7	2			27	7		5	非常時の備えを確認し、安心して過ごせる体制作りを続けていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	9			毎月の避難訓練に参加している。	30	4		6	
	3	服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況の確認の実施	8	1			31	6	1	2	
	4	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	9			アレルギーの際はダブルチェック。					
	5	安全管理の徹底	8	1		日々の活動において安全確認を行い、子どもが安心して過ごせるよう配慮している。	31	6	1	2	子どもが安心して過ごせるよう、安全管理の意識を持って取り組んで行く。
	6	家族等との連携を図るため、安全計画に基づく取組内容についての家族等へ周知	8	1			30	4	1	5	
	7	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	7	2		小さい事は書けていないので、細かいことも書いていくようにする。					日々の気づきについて、より細かな点も記録し、事業所内での共有に繋げていく。
	8	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	8	1		虐待防止について学ぶ研修の機会を設け、職員間で理解を深めている。					虐待防止について学ぶ機会を大切にしながら、適切な対応に繋げていく。
	9	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	8	1							